

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会 電気通信システム委員会(第22回) 議事録

1 開催日時

令和7年11月13日(木) 16:00～17:09

2 場所

Web 会議による開催

3 出席者(敬称略)

(1)委員等

主 査:丹 康雄

主査代理:永沼 美保

専門委員:浅井 光太郎、岩田 秀行、植松 友彦、大槻 芽美子、鈕吉 薫、後藤 良則、高
田 芽衣、野津 靖子、本堂 恵利子、宮地 悟史、山田 徹、山本 秀樹、横田
大輔

(2)総務省(事務局)

古川 易史(通信規格課長)、西野 寿律(通信規格課国際情報分析官)、他

4 議題

(1)ITU-Tにおける各SGの活動状況

(2)「電気通信システム委員会の運営について」の改正について

(3)その他

開 会

○丹主査 皆様、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、これより第22回電気通信システム委員会を始めさせていただきます。本日は御多用のところありがとうございます。

本日、17名の構成員のうち13名の方が出席となっております。御欠席は、熊田専門委員、長谷川専門委員、山本専門委員、横田専門委員の4名の方となっております。

それから、昨年の12月2日に開催しました第21回会合以降、今日の会議までの間、専門委員の退任がございましたので御紹介しておきます。

慶應義塾大学の手塚専門委員が御退任されました。構成員につきましては、皆様のほうに配付しております資料22-1が名簿となっておりますので、御参照いただければと思います。

名簿記載の内容に関しまして訂正等ありましたら、事務局までお願いできればと思います。

本日の議事のメインのところは、各SGの活動状況ということですので、恒例の状況ですけれども、オブザーバーの方で直接携わっていらっしゃる方に御出席いただいております。

まず、SG2からはNTT-ATの荒木様、それからSG5はNTTの原様、SG12のNTTの山岸様、SG15のほうはNTTの村上様、SG17はKDDIの三宅様、そして21、こちらはKDDIの河村様、以上6名の方に御出席をいただいているという状況になります。

それでは、この委員会の事務局であります総務省国際戦略局通信規格課の古川課長様より御挨拶をいただきます。よろしく申し上げます。

○古川通信規格課長 ただいま御紹介にあずかりました通信規格課長の古川でございます。

丹先生をはじめ委員の皆様方、また先ほど御紹介のありました6名の専門家、オブザーバーの皆様におかれまして、日頃、ITU-T標準化活動について御協力、また現場での御活躍を賜り誠にありがとうございます。

昨年、皆様にも御審議をいただきまして無事WTSA、開催されました。3年後にはま

た次のITU-Tの体制に向けたWTSAということになりますけれども、その間、着実な標準化を進めていくということが必要なところでございまして、昨今、日本からの参加者の確保、標準化人材の育成など課題が多くございまして、この標準化というのはツールであって目的ではないという考え方を踏まえまして、効率的、効果的な標準化を探ってまいりたいと考えております。

また、本日の議題でございすけれども、ITU電気通信標準化局長立候補においても、我が国の標準化の貢献、これをしっかり示してまいりたいと考えております。

最近の動きですけれども、本年6月には内閣府知的財産戦略本部で新たな国際標準化戦略が策定したところでございまして、情報通信というのが幾つかある分野の中の標準化の戦略領域ということで指定されております。

総務省としてもこの戦略のフォローアップをしっかりとまいりますし、また市場確保という観点から、標準化の在り方、また経済安全保障の確保、そういったことも踏まえて、我が国の勝ち筋を見いだせるように、既に先月、標準化戦略を検討するタスクフォースも設置した次第でございす。

電気通信システム委員会の皆様におかれましては、このITU-Tの役割というものも踏まえながら、グローバルや標準化にどう対応していくのか御審議賜れば幸いです。

以上、挨拶とさせていただきます。

○丹主査　ありがとうございます。先ほど冒頭、私、4人の委員が御欠席と申し上げてしまいましたが、大変申し訳ありません。横田専門委員、今回御出席いただいているということで3人の方が御欠席ということになります。

○伊藤係長　事務局です。失礼いたします。山本専門委員にも御出席いただいております。失礼いたしました。

○丹主査　分かりました。

それでは、改めまして本日の会議はウェブ会議となりますので、いつものごとく、御発言の際は挙手機能を御利用ください。こちらから指名させていただきます。

それでは、まず最初に事務局のほうから資料の確認をお願いいたします。

○伊藤係長　事務局でございす。資料につきましては、事前に電子メールでお送りしております。議事次第のほかに、資料22-1　ITU部会電気通信システム委員会名簿、資料22-2　ITU-Tにおける各SGの活動状況、資料22-3　「電気通信システム

委員会の運営について」の改正について、資料２２－４ 国際電気通信連合（ＩＴＵ）電気通信標準化局長選挙への立候補の４点となっております。御確認ください。

○丹主査 ありがとうございます。それでは、まず本日の議事に先立ちまして、主査代理の指名をしたいと思います。

情報通信審議会のほうで委員の一斉改選がありまして、改めてということになります。

本委員会の主査代理に関しましては、ＩＴＵ部会における委員会の設置及び運営について第３項の３というところで、主査が指名をするということになっております。

私としましては、以前よりお願いしています永沼様にお願いをしたいと思います。ＩＴＵ－ＴのＴＳＡＧの副議長ですとか、ＲＧ－ＷＰＲですとかというところで御活躍をされており、さらに、ＳＧ１７でも以前より御活躍で、ＡＰＴのほうにも非常に貢献されているということで永沼様にお願いしたく思います。

永沼様、発言できますか。

○永沼主査代理 ありがとうございます。永沼でございます。ただいま御指名をいただきまして、継続の御指名となりましたが、こちらの主査代理を拝命いたしました永沼でございます。

引き続きＩＴＵ、新しい会期に入りまして、これからＷＴＳＡに向けていろんな話が出てくると思いますので、皆様と準備のほう進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

○丹主査 ありがとうございます。また引き続きよろしくお願いいたします。

（１）ＩＴＵ－Ｔにおける各ＳＧの活動状況

○丹主査 それでは、議事に入りたいと思います。

まず、１番の議事、ＩＴＵ－Ｔにおける各ＳＧの活動状況というところ、こちらに関しましては、それぞれＳＧごとに資料、スライドが作成されておりますが、進め方といたしまして、事務局のほうから順に概要と、それからあとは有識者の方から補足というような形で進めていただければと思います。全てのＳＧが一通り終わってから質疑というところにさせていただければと思います。

それでは、事務局のほうでお願いできますでしょうか。

○西野国際情報分析官

(資料22-2に基づき、ITU-T SG2について事務局より説明)

NTT-AT、荒木様、コメントをいただければと思います。

○荒木様 NTT-ATの荒木です。よろしくお願いいたします。

御説明にありましたように、今回、E.164という国番号、カントリーコードを規定する勧告の改定が進められております。

こちらの新規カテゴリーを追加するというのが今回の主な変更点ではありますが、内容としては、インマルサット等の衛星通信サービスとか、そういった既存のサービスに対して既にシェアド・カントリーコードというのが割り振られている現状に合わせるために、新しく3つのカテゴリーをE.164に追加するという形になっています。

その中の1つのIoT/M2Mサービスに関しては、前回のWTS A-24で決議2が改定されまして、IoTの運用面とか識別の運用面というのがSG2のリードスタンダードグループに新たに認められて追加されておりますので、これを受けて新規勧告E.192という、IoTのサービスやアプリケーションの運用ガイドライン、そういうものを新たに1つの文書でまとめて新規勧告として作成しております。

これは、E.164.1という運用ガイドラインの勧告を補足するような形で新たに制定されております。

私からは以上、補足となります。

○西野国際情報分析官

(資料22-2に基づき、ITU-T SG3について事務局より説明)

本堂様、コメントをいただければと思います。

○本堂専門委員 ありがとうございます。記載していただいた内容は2025年4月のSGの状況になります。直近の会合として先週、ラポーター会合とプレナリーがジュネーブで開催されました。

最近の主な議論の状況にアメリカの動向等を入れていただきましたけれども、今回もシャットダウンの影響ですとかでアメリカのプレゼンスが気になるところで、今後の動きで先進国として同調できる部分が多いと思いますので、どのような対応をしていくのか注視していきたいと思っております。

以上です。

○西野国際情報分析官

(資料22-2に基づき、ITU-T SG5について事務局より説明)

原様、コメントをいただければと思います。

○原様 ありがとうございます。SG 5につきましても、先週、SG 5 プレナリーが開催されております。

こちらでは②のほうになりますけれども、AIに関する環境影響評価の勧告案がコンセントされております。また、新たにAIに関して1つの勧告ともう一つのサプリメントの新しい作業項目がコンセントされております。

こちら、AIに関わる勧告につきましては、ETSIとヨーロッパ諸国が中心になって進められているという状況でございます。

以上でございます。

○西野国際情報分析官

(資料22-2に基づき、ITU-T SG 11について事務局より説明)

釘吉様、コメントをいただければと思います。

○釘吉専門委員 NICTの釘吉です。

SG 11は信号要求、プロトコル、それからインターオペラビリティのテスト、あと模造品対策等、幅広く議論しているのですが、その中で特に日本からはQKD Nのプロトコルに寄書を提出して議論に積極的に参加しているという状況です。

QKD Nの標準化そのものは、ITU-Tの中ではSG 13でアーキテクチャーを議論して、17でセキュリティを議論して、11はその中でもより実装に近い部分ということでプロトコルの議論を進めています。

今までに鍵リレーという基本手順の勧告が完成していて、今、より高度なQKD Nの構築に向けて制御と管理の高度化、それから国内ではNECと東芝がQKD Nの製品化を進めているのですが、相互接続のためのインターオペラビリティ、インターワーキング等の勧告の議論を進めているという状況です。

あと、シグナリングセキュリティなのですが、Q.TSCAという勧告案をつくっています。これは、CLISプーフィングという発番号のなりすまし問題に対応して信号方式のセキュリティを高めるということで、プロトコルにデジタルサーティフィケートを、SG 17で検討しているPKIのデジタルサーティフィケートを載せるというプロトコルの検討を進めています。

関連するワークアイテムとして、デジタルサーティフィケートの運用に関してはSG 2で議論が並行して進められていて、11はワークアイテムと同期をして検討を進める

ということにしています。

また、T S A Gでも関連するワークアイテムで新しいAシリーズ勧告でA. R Aというレジストレーション・オーソリティーというワークアイテムが今開発中です。それら3つのワークアイテムが関連するワークアイテムとして同時に注意して見ていく必要があると思っています。

以上です。

○西野国際情報分析官

(資料22-2に基づき、I T U-T S G 1 2について事務局より説明)

山岸様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○山岸様 N T Tの山岸です。今御紹介いただきましたとおり、ワーキングパーティー3つで構成されておりまして、特に電話の音声品質というのがS G 1 2では一番ホットな話題として今まで検討してきて、それが昨今、映像配信が流行ってきていたので、今回も②のところに記載されていますように、映像配信系の勧告ができているというようなところでございます。

もう一つ、②の一番最後のところのポチで書いてありますように、昨今ですと映像もいろいろな使われ方をされていて、自動運転の遠隔管制室みたいなものの中での映像品質というのはどのぐらいの品質レベルであるべきかというような議論がされていて、新しい勧告ができたというところが1つポイントかと思います。

今述べましたように、単純なエンドユーザー向けの音声サービスとか映像配信だけではなくて、どちらかという企業向けのサービスに関する勧告というものもスコープに入ってどんどんやってきているというところが少し変革してきたところだと感じています。

以上になります。

○西野国際情報分析官

(資料22-2に基づき、I T U-T S G 1 3について事務局より説明)

後藤様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○後藤専門委員 後藤でございます。先ほど事務局から御説明がありまして、若干補足させていただきますと、まず、日本からは主に量子鍵配送ネットワーク、Q K D、あとI O W Nグローバルフォーラムに基づく勧告、Y. L 2 E 2 n e t - f r m、こういったところを中心に提案を進めております。

また、先日の会合におきましてN I C T様からは、アバターロボットに関する勧告という事で新しく提案されるなど、日本からの提案も非常に活発に進められております。

また、日本以外のところも含めて言いますと、長年S G 1 3では、I M Tとクラウドについて2つ、2本柱として検討を進めてきて、特にクラウドにつきましては、もう10年来の長い歴史があるのですけれども、最近、A Iの関心も高まってまいりまして、クラウドとは別にA Iをどういう風にネットワークの中で使っていくか、特にネットワークの管理、運用面をどういう風に効率化するかということで、フォーカスグループ－A I N Nなど検討が進んでいるところでございます。

また、日本から提案しておりますL 2 E 2 n e tもI O W Nグローバルフォーラムの技術に基づく勧告につきましても、低遅延性というのを1つ特徴としておりまして、こういった低遅延につきましては、A Iのデータセンターのサポートにも使えるのではないかとといったような課題認識も高まっておりまして、一部関連するような技術、データセンター内の超低遅延のネットワークインフラでございまして、大量通信に関わる技術といった非常に最近の新しいトレンドを捉えたようなテーマも活発に検討されているところでございます。

そういった中で、恐らく今後はI M TとA I、単なる利活用だけではなくて、A Iを支える基盤としての将来ネットワークといったような検討がこれから進むものと期待しております。

以上でございます。

○西野国際情報分析官

(資料2 2－2に基づき、I T U－T S G 1 5について事務局より説明)

村上様、コメントをいただきましたと思います。よろしくお願いいたします。

○村上様 村上でございます。S G 1 5は御存じのように、参加人数、扱う範囲も非常に広くて、相当寄書数も、今回も300件以上は出ましたけれども、非常に活発な議論が行われているということで、最初のアクセスの話でいうと、今のP O Nを100G級にするというので変復調方式をどうしようかという話を今やっています。

これは、I T Uの技術仕様というのはかなりI E E Eのイーサネットの影響を受けているということで、I E E Eの動向と一緒にしながら進めているということですね。

ファイバーケーブルの話は、弱結合型マルチコアファイバーというのは、これはずっと日本の通信、潜在メーカーあるいはN T Tといった通信事業者が進めてきた技術で、これ

は標準化作業開始ということで進んでおります。

IEC でも日本の代表団がこれを進めているということで、かなり日本的な検討がやっと見られるようになったと。

一方で、別タイプのファイバー、ホローコアファイバーとかありまして、そっちは逆に中国とか、あとアメリカ、マイクロソフトがこれに非常に力を入れていたりして、その辺との兼ね合いがどうなるかというのは問題ですね。

あと、通信インフラ共有に関しても、アフリカが最初、これをやってほしいと言ったのですが、彼はあまり寄書を出さずに、今のところ中国とインドが積極的に関与しているということですね。

高速伝送の話でいうと、ある程度800Gの伝送については議論がいろいろあったのですが、結果としては今落ち着いている状態で、分布型ファイバーセンシングもこの間、10月の会合で勧告化完了という状況であります。

さらに、1波長当たり1.6テラビット級の話とか、新しい形態としては、昔からあるのですが、IP over DWDMというルーターに直接光モジュールを差し込んで通信できるようにするといった話も継続しております。

時刻同期、周波数同期の話も、通信網の時刻、周波数同期の話はずっとやってきていますけれども、最近はやっぱデータセンター網の同期技術をどうするかという話があって、これはAIをやると大容量のデータをやり取りするのに、1個のデータセンターだと電力消費でもたないという今認識でありまして、Chat GPTなんかのGPT-3から4になると数百万単位の計算チップが必要になってきて、そうすると、計算上、1個のデータセンターでは1個の電力発電所でもたないという計算になっていまして、したがって、データセンターを分散して配置して、それらの間をどううまくやり取りして光ファイバーでつないでやるかというのが1つの課題になっておりまして、この話で時刻同期もその間どうするのだという話が進んでいます。この辺は技術レポートという形で今完成したところであります。

また、国際度量衡委員会が2030年に秒の定義を、これ、1960年か70年ぐらいにセシウム原子を1秒の定義に使っていましたが、そこから何十年ぶりで光の原子時計に変えようという今話があって、そういった技術の成熟をにらみまして、まずは標準まではいかないけど、テクニカルレポートからつくろうということで、NTTやドイツテレコム、オレンジ、共同で提案している話が進んでおります。

最後、アーキテクチャーと管理制御についても、中国勢が非常に積極的に提案してきたのですが、I O N - 2 0 3 0、ちょっとどこかで聞いた響きなのですけれども、将来の伝送網に関する技術文書を作成し、10月のこの間の会合で一応アグリーメントにはなりました。

欧州でも似たような活動はしているらしくて、一部スペイン、ポルトガルだったかな、その辺は同じような内容でやるべきだと賛同していたということですね。

さらに、今後それを進めていこうということで、今回も寄書がいろいろ出ていたということで、大まかに言えばこの内容は、6G、I M T - 2 0 3 0とA I、それからデータセンター、それからブロードバンドアクセス、その4つぐらいを項目に入れています。

ただ、中にサテライトとかN T Nという言葉も入っていたりして、これ、結構反対があって、サテライトは違うでしょうという、S G 1 5じゃないでしょうという話は言っているのですが、なかなか中国がしつこくて、1回、2回駄目と言われてもまた再度やってきて、最後根負けしているような感じもあるので、ちょっと見なきゃいけない。

I T U - Rとかにリエゾンを送るのですけれども、どうも光通信ならS G 1 5だという単純な発想で中国勢が全部スコープに入れようとしているので、ちょっとそれは違うのではないかという周りの意見もありながら、どうなるか、ほかの標準化団体との兼ね合いを十分気をつけながら進めていかなければいけないと思っています。

私から以上です。

○西野国際情報分析官

(資料22-2に基づき、I T U - T S G 1 7について事務局より説明)

三宅様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○三宅様 K D D I の三宅です。よろしくお願いいたします。

S G 1 7の概要については御説明していただいたとおりですが、ここに書かれている1から4が日本から中心的に活動している分野となっております。

そのほかにS G 1 1、S G 1 3で説明がありましたとおり、Q K Dに関してもS G 1 7で日本提案として積極的に貢献しているという分野になります。

前回の会合が2025年4月で、次回の会合が来月12月ということで会合直前ということで、これまでにいろいろ中間会合とか、あとコレスポnden スグループで議論してきたのですが、トピックとして幾つか御説明しますと、1つは、その他のところに書かれているのですが、A Iセキュリティに関してコレスポnden スグループで議論が深

まりまして、いろんな角度から取り扱うべきだということで、新たに課題の作成提案が次回の会合で行われる予定となっております。なので、SG17としてAIセキュリティ、課題の中の1つとしていろいろ議論されてきましたが、もっと大々的に議論を始めるということになると思います。

その次に書かれている課題3と課題10の統合についても議論が進みまして、順調にいけば次回の会合で統合提案されて認められるということで、課題の数も抑制というのを日本は提案していたのですが、AIセキュリティ、1つできるということで、課題を減らすためにという観点もあって、3と10のマージをするというふう考えられています。

あとは、今会期から議長がイギリスの方に替わりましてかなり積極的に動かされていて、この会合間の期間中にいろんな他の団体のセキュリティの標準化活動とかフォーラム活動に参加して連携が深まっているということで、次回の会合で今後、他の団体と連携を踏まえたAIセキュリティだとかいろんな分野の活動が進むという予定となっております。

以上となります。

○西野国際情報分析官

(資料22-2に基づき、ITU-T SG20について事務局より説明)

山田様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○山田専門委員 ありがとうございます。NECの山田です。SG20の状況に関しまして補足をさせていただきます。

ここで記載の③の新課題、新しいクエスチョンが先月の9月の会合で設置が合意されました。デジタル農業に関するものでございます。エジプトあるいはアフリカ諸国からの提案でということで、ラポーターの1人にはアフリカの方が就いていて、あとは中国、韓国などが副ラポーターになっているというところでございます。

今研究会1回目の会合、1月会合でも新しい課題、クエスチョンを設置するという提案があつて合意されております。そちらはエネルギーの効率化、省エネみたいなところで、電力に関わることをIoTでやるというものなのですが、これも設置されて中国がラポーターを執っているというところでございます。

9月の先月の会合でもこういった業種ごととか領域ごとのクエスチョンがどんどん乱立してしまうのではという懸念が参加者から示されまして、それに対してSG20の韓

国の議長から、今研究会期に関しては、もうこれ以上新しいクエスチョンはつくらないと、現状の体制で２８年の末までは議論していく、ということが表明されたというところでございます。

補足は以上になります。

○西野国際情報分析官

(資料２２－２に基づき、ITU-T SG 21について事務局より説明)

河村さん、SG 21に関しましてコメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○河村様 KDDI、河村です。御説明ありがとうございます。幾つか補足させていただきます。

まず、１つ前のページのSG 9関係になります。

こちらに関しましては、基本的に記載のとおりですけれども、この旧SG 9では、特にケーブルの伝送技術であるDOCSISという規格のメンテナンスや新しいものの研究開発というのが主要な業務の１つとなっております。

DOCSISに関しまして、米国のケーブルラボのメンバーから情報提供があり、新しいバージョンそのものの予定はないですけれども、細かいスペックのバージョンアップがあるので、ITU勧告に反映するのが望ましいだろうという情報提供がございました。

続いて、SG 16関係のところと言及のありましたところを補足させていただきます。

課題の再編、アドホックFQSというのが動いておりまして、特にワーキングパーティー１に関わるころの課題を幾つか再編、統合したほうがよいだろうということの方針が合意されまして、こちらに沿って１２月と３月に中間のアドホックグループ会合を予定しております。そこでは、クエスチョンのマンドート、クエスチョンのテキストを統合したものを議論する予定になっております。

それから、①に書いてあるメタバース関係で、フォーカスグループは成功裏に終了しておりますけれども、そのフォローアップとしてJCA-メタバースというのがSG 21とSG 20の共同でTORを提案する形で、TSAGの承認を経て設立されております。

前回の２０２５年１０月会合でもJCA-MVの会合が開かれて、メタバースの勧告化が着々と進んでおります。

最後、もう１点だけ。ここに言及がないのですけれども、メディアの真正性、正しさみたいなものを保証する仕組みに関する議論が少し盛り上がっておりまして、メディアオ

ーセンティシティーということで議論が進んでおります。

前回まではアドホックグループを立ち上げてどう議論するかを検討しておりましたが、最近の会合で、特に圧縮されたデータに対して真正性を保証する方法、仕組みというのを勧告化する方向で考えておりまして、まず、その前段階としてテクニカルレポートをつくるということで合意されております。

以上となります。

○西野国際情報分析官

(資料22-2に基づき、ITU-T TSAGについて事務局より説明)

永沼様、コメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○永沼主査代理 ありがとうございます。TSAGでございますが、今会期に入りまして全てのスタンディグループの会合が一巡したところで、5月に第1回の会合が開催をされております。

決まったことにつきましては、今お話があったとおりですが、一応補足としまして、今会期の体制についてちょっと補足をいたします。

まず、今TSAGにつきましては、議長はサウジアラビアのAl Hassan氏ということで第2期目というところで、議長は変わらずでございます。

バイスチェアにつきましては10名、5つのリージョンから2名ずつというところで10名のバイスチェアが入っている中で、この5月の会合では、今会期の体制について一応決定をしております。

今会期、TSAGは、Al Hassan氏が第2期だということもありまして、2つのワーキングパーティーの形を維持しております。こちらはある意味、継続ですが、構成等マネジメント体制は少し変わってきておりまして、まずワーキングパーティー1につきましては、こちらは作業方法のワークメソッドのラポーターグループ、それからもう一つ、collaboration, engagement and strategic planということで、産業界のエンゲージメント部分のところを行っていくコラボレーション、エンゲージメントというところと、それからWTSAで決まった戦略計画、こういったようなところを合わせて議論をするラポーターグループがありまして、基本的には、このワークメソッドともう一つの産業界の話とか行動計画みたいな戦略を話していくところということになっております。

それから、ワーキングパーティー2につきましては、まずは、1つ目はワークプログラ

ムの話があります。それから、もう一つは、今回からは新たにスマチックレゾリューションということで、具体的にはサステナブルなDXの話ですけれども、ワークプログラムの話でSGの話をすると同時に、今会期における重点的に議論すべき内容とレゾリューションに基づいた内容ということをお話するというのがワーキングパーティー2ということになっております。

恐らく日本の皆様の関心が高いのはWork Programme and Restructuringというところで再編成の部分の話だと思いますが、こちらにつきましては、私のほうでラポーターグループWPRのラポーターを継続という形になっておりますので、引き続き、再編の話、そろそろ出てくるかなと思っておりますので、皆様のほうから御意見があれば、できるだけ取り入れていくような形にできればと思っております。

この2つのワーキングパーティーと現在、TSAGの中には6つのJCA、それから1つ、CITSという自動車関係のほうのコラボレーションのメカニズム、それからグローバルスタンダードイニシアチブということで、これ、IoTですけれども、1つGSIというものがございます。

それから、新たに今回からできているジョイントコレスポndenスグループというスタディーグループのジョイントで議論をするという話で、2つこのJCGが立ち上がっております。

こういったようなことをこれから3年間議論するということで、一応新しい体制のところで、今回のマネジメントのハイライトとしては、ワーキングパーティーの議長は必ずしもバイスチェアがやっているわけではなくて、やはりインダストリーの人間をいろいろ入れたいと。ほとんどカナダから来ていますけれども、インダストリーの人間を入れるということとジェンダーバランスを取るという形で、従来のバイスチェアがみんな何かやるというところとは少し違った形でのマネジメント体制となっております。

TSAGにつきましては、来年度1月、最終の週、26日から30日に第2回ということが議論をされることになっておりまして、寄書はこれから出てきますが、恐らくAIに関しての何らかの議論が起こるのではないかと考えております。一応3番目のところでAI活動指針に関する提案ということで、前はちょっと違うという話になりましたが、これだけいろんなスタディーグループの中でAIが議論されている中で、ITU-Tとしてどうするのかという話が恐らく出るのではないかと考えております。

出てきた場合には、内容によりますが、R Gの恐らくW P Rのほうでも議論されるのか、あるいはインダストリーのエンゲージメントで議論されるかというようなところで、内容にもよりますが、その場合は、S GのコーディネーションであればR GのW P Rだと思いますし、民間をもっと入れてという話になるか、あるいは戦略的な計画のほうに落とすべきというようなことのロードマップの話になると、ワーキングパーティー1のインダストリーエンゲージメントになるかというようなところではございますが、いずれにせよ、その辺のところで議論があるのではないかとこのところでございます。

以上です。

○西野国際情報分析官 こちらの資料についての説明、以上になります。丹先生、ありがとうございます。

○丹主査 これで一通り御紹介いただいたという形になりますが、何か御質問あるいは補足等ありましたら、この場でお受けしたいと思います。

先ほども申し上げたとおり、挙手ボタンでいただければというところですが、いかがですか。どうぞ。

○古川通信規格課長 事務局でございますが、補足発言してよろしいでしょうか。

○丹主査 お願いします。

○古川通信規格課長 先ほど報告の中で、アメリカ政府機関の閉鎖の影響というのが少しコメントで出たと思うのですが、もう既に報道もされておりますとおり、米国機関の閉鎖解除がなされたかなされるかという報道が出ておりますので、状況も注視しながら対応してまいりたいと思います。

以上でございます。

○丹主査 ありがとうございます。山本さんから手が挙がっていますよね。

○山本専門委員 沖電気の山本です。S G 2 1の御説明の2ページ目の最後にありましたIndustrial Machine Visionフレームワークの標準化のワークアイテムが承認されました。

この中で、後藤様のほうから御説明がありましたS G 1 3でI OWNグローバルフォーラムの成果の勧告として、低遅延、低消費電力のネットワークの勧告をつくられていますが、それを参照して、そういったネットワークの上で、先ほどもあったデータセンターを連携しているような、そういった上で動くようなマルチメディアシステムを前提としたフレームワークを検討しようということで、S G 2 1のほうでネットワーク

の最新技術、特に日本が作っている、そういったものを前提とした活動というのが始まっていますということを追加で御報告させていただきます。

○丹主査　ありがとうございます。そのほかいかがでしょう。

ちょっと僕のほうからも、5ページ、右肩に5と書いてあるスライド、SG5のスライドを出していただけますか。

この一番下のところに、ちょっと分かりにくい書き方になってしまっているのですが、けれども、括弧内、1対の、より対のケーブル、より線ケーブルですね。これ、いわゆるシングルペアイーサネットのことです。最近、SG15でホームネットワークのファイところの話も、それからあとアーキテクチャーの話ももう全然出なくなっていて、業界的には違うところへいっているのですが、主にIEEEの規約を使っているので、一方、シングルペアイーサネットも802.3のイーサネットファミリーなのですが、今まで4対、8芯使っていた銅線を1対だけで、2芯だけで同じパフォーマンスで10Gまでのスケールする10Mから10Gまでのイーサネットファミリーというのが今出来上がりつつあるという、そういう状況にあります。

さらに、ちょっと特徴的なのが、そこにパワーを載せますので、給電もパワー・オーバー・イーサネットのような今使っているものと同等以上の給電能力があって、距離に関しては、1km先まで給電できるとか、そういうものも入っているということで、結構大きくシステムの在り方が変わりそうだということで、シングルペアイーサネットが広まったときにどういう環境に対するインパクトがあるかみたいなものを日本提案としてSG5に出しているという、そういう形になっています。

これ、国内では、シングルペアイーサネットコンソーシアムという団体を、ここでNECマグナスさんと書いてありますけれども、NECさん、それからあとはNTTさんと一緒に立ち上げて、民間でかなりの数の会社が今入って活動しているというところですので、ほぼ全ての領域に、イーサネットファミリーですので、影響があるかなと思いますので、ちょっと御紹介を差し上げておきました。

そのほか、皆様のほうからいかがですか。TTC、岩田様、何か補足ありませんか。

○岩田専門委員　岩田です。ございません。すみません。

○丹主査　そうですか。分かりました。

では、皆様のほうからなければ、この議題、この辺でさせていただければと思います。

ちょっと17時回っていますが、もう少しお付き合いいただければと思います。

(2) 「電気通信システム委員会の運営について」の改正について

○丹主査　それでは、次の議事といたしまして、これ、ちょっと事務的な話ですけども、「電気通信システム委員会の運営について」、改正事項がありますので、事務局からお願いします。

○伊藤係長　（資料２２－３に基づき、事務局より説明）

○丹主査　ありがとうございます。こちらにつきましては、総務省さん側、それからあとはITU側のSGの再編、その辺の名前が変わりましたとか担当課が変わりましたということですので、機械的な話かと思います。特段御意見等はないと思いますが、よろしいですね。

では、この案のとおり改正という方向で進めてまいりたいと思います。

改正というところでは、本日１１月１３日付というような形になるというところです。

(3) その他

○丹主査　では、次の議題の３のその他というところになりますが、こちらも資料にありますとおり、ついこの間、選挙をやったような気がしましたが、この件に関しましても事務局から御説明いただければと思います。

○西野国際情報分析官　（資料２２－４に基づき事務局より説明）

○丹主査　ありがとうございます。これはぜひまた当選を目指すというところで、日本としては進めてまいりたいと思いますが、こちらも特段、皆様のほうから御意見とか、この場で応援の言葉とか、なければ進めさせていただきます。

それでは、その他の最後ということで、今後の予定等につきまして事務局からお願いできればと思います。

○伊藤係長　事務局でございます。次回の電気通信システム委員会につきましては、開催日程を主査と調整の上、別途事務局より御案内いたします。よろしくお願いいたします。

また、本日御説明いたしましたITU-Tにおける各SGの活動状況及びITU電気通信標準化局長選挙への立候補については、１１月１７日に開催予定の第２６回ITU部会で御報告する予定です。

事務局からは以上です。

○丹主査　ありがとうございます。来週の月曜日に I T U 部会がありますので、そちらで早速報告させていただきます。

閉　　会

○丹主査　それでは、議事、以上というところで、電気通信システム委員会、第 2 2 回会合を閉会としたいと思います。本日は皆様、どうもありがとうございました。